



Title	2011年度日本語イブニング・コース中間報告
Author(s)	山下, 好孝; Yamashita, Yoshitaka
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 15, 63-79
Issue Date	2011-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49300
Type	departmental bulletin paper
File Information	JISC15_004.pdf



2011年度日本語イブニング・コース中間報告

山下好孝

要 旨

本稿は、2011年度秋学期期間（2011年10月-2012年2月）に北海道大学国際本部留学生センターにおいて実施されている「日本語イブニング・コース」の活動内容と実績についての中間報告である（10月・11月分）。「日本語イブニング・コース」は、2010年度秋学期期間（2010年10月-2011年2月）に初めて試みられたもので、北海道大学の留学生・外国人研究員およびその家族を対象とし、留学・研究生活がスムーズに遂行されるよう、夜間に日本語のクラスを提供し、日本語学習を支援するものである。今年度も、昨年度の趣旨に基づき、同一のコース内容で実施されている。今年度は、昨年度とは別の建物で行われ、会場の規模が小さくなったものの、10月と11月の2か月間で、延べ参加人数は479名（受講者261名・インストラクター218名）にのぼった。インストラクターが企画して行うグループ・レッスンの延べ実施時間数は61.5時間であった。

【キーワード】 プレ・クラス、インタビュー・タイム、グループ・レッスン、日本語学習支援、国際交流

1. 日本語イブニング・コース継続実施の意義

北海道大学は、国際交流を従来以上に推進することを目的とし、平成23年4月1日に国際本部を設置した。国際本部には国際連携課、国際支援課、および留学生センターが置かれ、外国人留学生や外国人研究者に対する支援を拡大し、各種教育・研修プログラム等の提供をいっそう充実させることが期待されている。北海道大学で学ぶ留学生の数は2010年度に1400人を超え、日本語コースの受講希望者数も近年急増している。北大の国際教育プログラムにもっと日本語を学べるクラスを盛り込んで欲しいという留学生の要望も多い（北海道大学留学生センター留学生指導専門委員会2009：44）。留学生センターの日本語授業においては、2011年度に「ビジネス日

本語コース」を新設するなど、内容の充実を図っている。しかし、留学生センターでの授業は、各学部の講義と同様、継続的に所定の時間に受講しなければならず、希望した曜日・時間の授業を必ず受講できるとは限らない。時間的制約の大きい正規の日本語授業だけでは、依然として対応が難しい状況が続いている。留学生のニーズに応えるためには、大学が日本語クラスを増設し、授業時間を拡張し、それに見合う数の教員を増員し配置することが望ましい。しかし、少子化の影響を受け予算枠が縮小傾向にある大学の運営において、留学生関連の予算増額は実現が難しい。

イブニング・コースは、学生やボランティアを主体とし、低コストで日本語学習環境の拡充に貢献することを目的として、2010年10月5日に開始された。昨年度の活動により、一定の成果を示すことができた。昨年度のコースは非常に好評であり、学外からも広く注目された。『北海道新聞』2011年2月15日（火曜日）付朝刊27面（札幌圏）「現代かわら版」の紙面では、カラー写真4枚が掲載された記事として大きく取り上げられた。昨年度のコース終了後、参加者のみならず、日本語教育に関心を持つ学生やボランティアなどから、再開を望む問い合わせが多く寄せられ、今年度も実施することとなった。イブニング・コースは、留学生へ日本語学習の機会を提供するとともに、留学生の帯同家族への日本語学習支援も視野に入れている。イブニング・コースの特徴的な活動である「プレ・クラス」や「インタビュー・タイム」（山下他2010：18-21）では、日本語学習と同時に、人的交流も活発に行われた。留学生が帯同家族と共に参加できるシステムを導入したことにより、イブニング・コースは、日本語学習の場としてのみならず、生活支援の場としての役割も果たすことができた。このような場を継続的に提供することは、国際交流の推進や留学生の増加にも結びつくと考えられる。

筆者は昨年度の間接報告において、イブニング・コース継続の必須事項として予算および場所の確保と時間外における事務サイドの支援を挙げた（山下他2010：22）。昨年度の実績が評価され、昨年度以上の支援を受けることができ、今年度も開催が実現した。以下、10月・11月の期間についての詳細を報告する。

前年度の報告については下記URLを参照されたい（「山下好孝」「日本語イブニングコース」で検索のこと）。<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/46740/1/JISC14002.pdf>

2. コースの概要

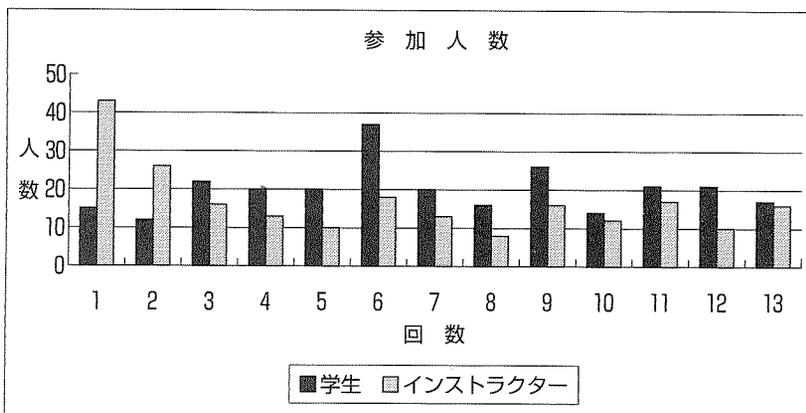
今年度のイブニング・コースに先立ち、9月30日および10月7日に、インストラクター（学習サポーター）を対象とするオリエンテーションが行われた。2日間で延べ80名が参加した。コースは10月14日から開始された。昨年度同様、毎週火曜日・金曜日に開催している。今年度は18時15分頃からプレ・クラスが開始されている。18時45分頃から各インストラクターが「グループ・レッスン」の提案を行う。受講希望者はインストラクターと共に小教室へ移動する。残った参加者でプレ・クラスが再開される。プレ・クラスは19時30分頃に終了する。グループ・レッスンは1時間～1時間半行われる。学習者の意欲が高く、20時半頃まで行っているグループ・レッスンも見られる。

10月14日から11月29日までの延べ参加人数は、受講者261名、インストラクター218名、合計延べ参加人数は479名であった（表1）。参加人数の推移は、図1の通りである。この期間、インストラクターが企画して行ったグループ・レッスンの延べ実施時間数は61.5時間であった（プレ・クラスは含まない）。昨年度同様、受講者は留学生、研究員およびその帯同家族である。インストラクターも昨年度同様、北海道大学の学部生、大学院

表1：イブニング・コース参加人数（10月・11月分）

	開催日	学生	インストラクター	計
1	10月14日	15	43	58
2	10月18日	12	26	38
3	10月21日	22	16	38
4	10月25日	20	13	33
5	10月28日	20	10	30
6	11月01日	37	18	55
7	11月08日	20	13	33
8	11月11日	16	8	24
9	11月15日	26	16	42
10	11月18日	14	12	26
11	11月22日	21	17	38
12	11月25日	21	10	31
13	11月29日	17	16	33
小計		261	218	479

図1：イブニング・コース参加人数の推移



生、職員を中心に募集を行った。学外からは、日本語教育者を目指す人材が多く集まった。昨年度イブニング・クラスに参加し、今年度も継続して参加したインストラクターは10名であった（10月・11月分）。

3. コースの活動状況

今年度のイブニング・コースは、昨年度の運営方針にはほぼ沿った形で実施されている。イブニング・コースの基本活動は、「プレ・クラス」「インタビュー・タイム」「グループ・レッスン」で構成されている。今年度は国際本部の2階大講義室をプレ・クラスの会場としている。昨年度の会場であった留学生センターのラウンジより会場が小規模になった。グループ・レッスンには留学生センター2階および3階の各教室が提供されている。以下、今年度の活動状況を紹介する。

3.1 プレ・クラスとインタビュー・タイム

プレ・クラスは昨年度同様、担当者（山下）がプロジェクターを用いて学習者の指導にあたっている。初学者が緊張せず楽しく学習できるよう、様々なメニューが用意されている。インストラクターは受講者に混じって、受講者と同じ立場で参加する。受講者はインストラクターの発音を聞きながら練習できる。

一例として、数字を用いた発音練習を紹介する。「1（いち）」「2（に）」の表記と、「ひとつ」「ふたつ」の表記を混ぜ、ランダムにプロジェクター

に映し出し、瞬時に答える練習である。慣れてきたら、映し出される数字に1を足した数字や、1を引いた数字を答えさせる。10000など大きな桁の数字もあり、学習者は素早く反応することが難しい。さらに、数字と国旗の図をランダムにスクリーンに映し出し、瞬時に答えさせる試みも行われた。国旗の図が映し出さ



プレ・クラスの様子

れた場合には、国名を答え、数字が出てきた場合には1を足した数を答えるなど、設定を複雑にすることで、受講者のみならず母語話者であるインストラクターも一種のゲームとして楽しむことができる。インストラクターが誤答をして、席から立たされることにより、場が和み、笑いが起こる。学習者もリラックスしながら知識を習得することができる。数字や国旗のほかに、50以上におよぶ生活用品、動詞、形容詞、などの絵カードが用意され、日替わりでメニューが異なる。プレ・クラスに出席するだけでも、学習者は習得語彙を相当数増やすことができる。

インタビュー・タイムは、昨年度同様、盛況であった。初回の参加者は学生15名に対しインストラクターが43名であったため、学生1人に対してインストラクター2～3人がインタビューを担当した。1対1でなくグループでインタビューが進められたためか、終了時間が過ぎてでも帰ろうとする参加者がおらず、会話が活発に続けられた。

3.2 グループ・レッスン

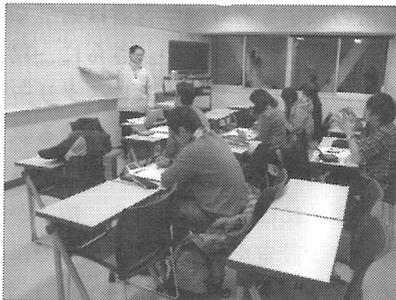
今年度は、初めて参加するインストラクターにもグループ・レッスンの概要が理解しやすくなるよう、9月30日および10月7日実施のオリエンテーションにおいて、昨年度のグループ・レッスンを紹介した。昨年度グループ・レッスンを行ったインストラクター数名が、実施したクラスの概要を説明した。また、昨年度の企画書を参加者が自由に閲覧できるようにした。その効果があり、今年度のイブニング・コースでは、早い時期からグループ・レッスンの提案が出された。グループ・レッスンは、1人のインストラクターに対し、5人の受講生を基本単位とする。

グループ・レッスンを担当するインストラクターには、昨年度同様、1

時間あたり1000円の謝金が支払われる。以下、10月・11月に提案され実施されたクラスを紹介する。

『日本語能力試験（JLPT）1級・2級対策クラス』

このクラスは昨年度から要望が多かったクラスであるが、昨年度は実施されなかった。今年度は10月25日から開催された。実施回数が最も多かった（10回）。受講者の希望により、主に漢字の指導が行われたが、言語知識、聴解、読解の指導も行われた。12月5日に日本語能力試験が実施されたが、試験が終わった後もクラスの継続を希望する受講者が多く、12月も引き続き行われている。



日本語能力試験(JLPT)1級・2級対策クラス

『中上級作文クラス』

このクラスは、日本語での作文、特にレポートの書き方について学習するものである。毎週1回、全4回開催された。第1回および第2回はレポートを書く場合の形式的な指導が行われた。第3回および第4回は、参加者が自由に選択したテーマに沿ってレポートを書く練習をした。インストラクターはクラスの中で学習者のレポートをチェックしながら作文指導を行った。

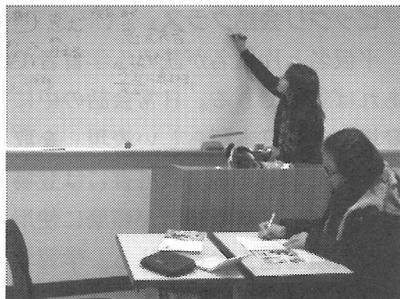


中上級作文クラス

『「ももたろう」を読もう！ クラス』

このクラスは初級者を対象としている。教材は、本文にすべてルビがふられているものを使用し、平仮名と片仮名が読める学習者であれば参加できるようにした。日本のおとぎばなし『ももたろう』を教材とし、朗読の練習をした。オノマトペや、日本の文化を理解することもできるよう、語彙の説明も詳しく行った。『ももたろう』を読み終わったあと、次は『か

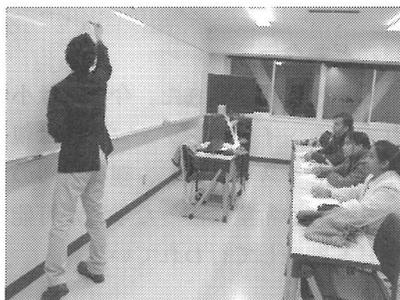
ぐやひめ』の朗読の練習が行われている。



『ももたろう』を読もう！ クラス

『ひらがなクラス』

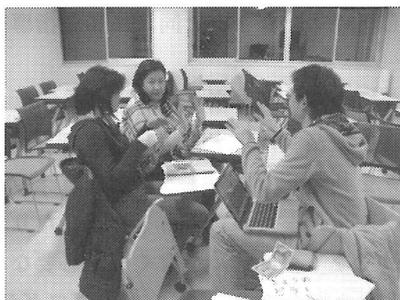
全くの初学者を対象としている。50音表を用いて、平仮名の読み書きを指導する。このクラスも受講者のニーズが高かった。昨年度も、コース後半の日程においては完全な初学者の参加が増え、少人数での『ひらがな・カタカナ書き方教室』などが開催された。イブニング・コースには、正規の日本語クラスを受講するレベルに達していない日本語学習者の参加も多い。



ひらがなクラス

『相撲を視ながら学ぶクラス』

平仮名および片仮名が読める初級の学習者を対象とするクラスである。受講者は、相撲の取り組みをビデオで見たあと、取組中に出てきた動詞、名詞、形容詞を学ぶ。相撲に頻繁に出てくる品詞を習得できることはもちろんであるが、日本の代表的な文化である相撲を鑑賞し、文化的な理解にもつながる。



相撲を視ながら学ぶクラス

『ビックリ会話クラス』

平仮名と片仮名が読める学習者であれば参加できる。日常会話の中に登場する「日本語らしい表現」を取り上げて学習する。教科書には登場しないが、日本語話者が頻繁に使用する表現を選んで指導する。学習者が日本語話者と会話したときに、日本語話者をあっと驚かせることができる表現を習得しよう、という意図で、このタイトルが付けられている。



ビックリ会話クラス

『こどもクラス』

昨年度も開催された。今年度は小学校1年生の漢字を中心に指導が行われている。イブニング・コースは親子で参加することができるため、子供がこのクラスを受講し、親は自らのレベルに合った別のクラスを受講し、それぞれの希望に沿った学習が可能である。10月・11月中に10回開催され、12月も継続して行われている。

『ひらがな・カタカナ・発音教室』

全くの初学者を対象とし、平仮名と片仮名をきれいに書くことを目標とするクラスである。昨年度も開催された。既に平仮名と片仮名を書くことはできるが、さらに美しい形の文字を書きたいと希望する学習者も対象にしている。書き方と同時に発音指導も行う。

『打つ日本語、書く日本語』

平仮名・片仮名が書ける初級学習者を対象とする。「打つ」とはパソコンを利用して学習するという意味である。パソコンを使って名刺を作成したり、メールの書き方を学習したりする。日本語の入力方法を学習するだけでなく、メールを書く上で必要なエチケットや適切な文章表現も学習することができる。「書く」のプログラムでは原稿用紙の使い方を学ぶ。

『初級日本語クラス』

教材に『みんなの日本語初級本冊Ⅰ』を使用して、初学者を指導するクラスである。留学生センターの正規の日本語授業に結びつく内容でもあるため、橋渡しとしての役割もある。

『中上級スピーチレッスン』

自然な日本語でスピーチを行うことを目標とするクラスである。週1回、全4回開催された。第1回目は発音練習が行われた。中上級者向けのクラスではあるが、五十音表を用いて単音の練習から始められた。日本語の発話リズム、アクセント規則、ダウンステップ等も紹介された。特殊拍、平板アクセント、無声化が関わる発音について、特に重点的に練習が行われた。第2回目以降は、30分程度の発音練習の後、各受講者が自由課題によるスピーチを行った。インストラクターがスピーチを録音し、各受講者にフィードバックを行った。クラス終了後、受講者から継続の要望があり、12月に再開されている。

4. おわりに

今年度のイブニング・コースは、昨年度の運営方針に沿った形で順調に進行している。11月末の段階では、昨年度以上に充実した内容でコースを運営することができている。昨年度のノウハウの蓄積があるため、受付業務、インタビュー・タイム、プレ・クラス、グループ・レッスン、それぞれの活動が円滑に行われている。インストラクターはコース開始直後から積極的に参加し、インストラクター同士の交流も活発に行われている。グループ・レッスン終了後には、インストラクターと受講者が歓談する光景も多く見られ、施錠時間（21時）間際まで続くこともある。提案されたグループ・レッスンのクラス数も昨年度より増えている。開催されているクラスが多く、開催日時は同じであるため、複数のクラスに参加したくても1つしか受講できないことを不満に思う受講者もある（資料4：インストラクターの声参照）。11月29日付けでインストラクター16名に行ったアンケート結果では、今後、同じような企画があった場合、ぜひ参加したいという回答が12名であった。参加できないとした3名は、学業の比重が大きくなるため時間的に参加が難しいという回答であった。大学生を中心に運営している以上、このような事情は当然出てくる。コースの活動を継続す

日语讲座

让我们一起快乐地学习日语！

时间： 星期二和星期五
10/14、10/19、10/21、10/25、10/28
 60分钟 / 18:00~20:00
 (根据大家的时间具体安排)
 地点： 留学生中心 (北15, 南8)
 对象： 北海道大学的留学生及家人
 (同时欢迎小朋友们的参加)
 具体学些什么呢？
 ☺ 根据大家的需求安排课程 ☺

联系方式： 山下好孝 yama@cia.hokudai.ac.jp

Japanese Evening Course

Let's enjoy Japanese Now!



Time: TUE&FR
10/14、10/18、10/21、10/25、10/28
 90min / 18:00~20:00 (upon request)
 Place: International Student Center(Kita 15 Nishig)
 Learners:
International Students of Hokkaido University
 and their **FAMILY** (children are welcome)
 What will we learn?
 ☺ We are planning various classes upon learners' request ☺
 Contact: yama@cia.hokudai.ac.jp

資料2 「日本語イブニング・コース」インストラクター一覧

氏名	所属
荒井 泰子	学外
上林 彰仁	理学院 修士課程
木村 香奈	教育学部 学部生
邱 林 燕	国際広報メディア・観光学院 博士後期課程
小池 瑠莉	学外
杉浦 和子	学外
谷口 博子	学外
張 馳	国際広報メディア・観光学院 修士課程
常木 生也	農学部 学部生
成田 一樹	学外
深川 暁音	教育学部 学部生
細野 弥恵	国際広報メディア・観光学院 修士課程
村田 真維	国際広報メディア・観光学院 修士課程
盛田 夏希	国際広報メディア・観光学院 修士課程
安江 一穂	農学部 学部生
吉田 由利	学外
林 恒立	国際広報メディア・観光学院 博士後期課程

た授業ができるし、楽しい雰囲気が出ています。昨年度よりも参加人数が少ない点が、残念です。学習者にとっては、今後もイブニング・コースが継続されることが望ましいと思いますが、私は来年、勉強が忙しくなるので、参加できません。」

「昨年度から引き続き参加しています。今年度のイブニング・コースは、メール¹⁾の案内で知りました。毎回参加しています。イブニング・コースは、楽しさがあって自由です。去年参加してくれた受講生が今年度も参加してくれて、私のことを覚えていてくれたのが嬉しかったです。去年に比べて参加人数が少ないのが残念です。去年の校舎のほうの方が良かったと思います。この活動が継続されればいいと思いますが、来年は多忙になるため、参加が難しいです。」

「友達に誘われて参加しました。毎回参加しています。イブニング・コースは、なかなかできない経験ができます。英語やコミュニケーション能力も向上します。自由にできるところがいいと思います。受講生が初心者に偏っている点が気になります。来年以降もぜひ参加したいです。」

「週に1回参加しています。日本語の教え方の勉強になります。グループ・レッスンのクラスの参加者に個人差があるので、まとめるのが難しいときがあります。イブニング・コースは、とても自由度が高くていいです。正規の授業のような先生と学生との関係ではなく、友達同士の感覚で一緒に学習できます。今後も参加したいです。」

「毎回参加しています。昨年度も参加しました。イブニング・コースは、留学生だけでなく家族も参加できるのが良い点です。また、インストラクターには日本語の教歴に関わらず指導の機会が与えられるので、その点も良いと思います。インストラクター自身が授業内容を考えてクラスを担当できるので、日本語の指導の勉強になります。昨年度は会場の外からでもブレ・クラスの様子が見えて良かったですが、今年の校舎はそうではないので、残念です。今後もぜひ参加したいと思います。」

「毎回参加しています。いろいろな国の人と知り合いになれて楽しいで

す。授業を担当することで、どのように教えたらいいか工夫するようになりました。どれだけ理解してもらえているかわからず不安になるときもあります。受講者はインストラクターに対して親しみを持っているように感じます。来年度も実際に授業が担当できるなら参加したいです。」

「知人から情報ももらって参加しました。週1回参加しています。イブニング・コースは、気軽に日本語のインストラクターとして働くことができるし、良い経験になります。独特の勉強の場だと思います。共通の教材もないので、クラス構成も不思議な感じで面白いです。私は日本語指導のプロではないので、ボランティアのつもりで参加しています。今後も参加を希望します。」

「毎回参加しています。去年から参加しています。プレ・クラスでは毎回発音の練習ができて良かったと思います。ゲームや絵を使って単語を覚えられるのも面白い方法だと思います。今年は留学生の参加数が少なくプレ・クラスの人数も少ないのが残念です。イブニング・コースは、試験もテキストもありませんので、自由な雰囲気の中で楽しく勉強できると思います。今後も参加したいです。」

「知人からきいて参加しました。週に1回参加しています。日本語教師を目指していますので、経験を積むとても良い機会です。参加者のレベルに合った授業がもっとあればいいと思います。私は普段日本語をボランティアで教えていますが、ボランティアは1対1で教えるので、教えられる人数には限りがあります。イブニング・コースは、大人数で国籍も様々なので、どのように教えるか工夫が必要だと思います。今後もぜひ参加したいです。」

「学部の掲示板で情報を知りました。週に1回参加しています。グループ・レッスンは少人数のクラスなので、正規の授業に比べて受講生の発言のチャンスが多いと思います。自分のレベルに合った適切なクラスを選べるし、興味のあるクラスを選べるので、良いと思います。今後も参加したいです。」

「学部の掲示板で情報を知りました。毎回参加しています。イブニング・コースは、自由にクラスを組み立てることができるので、インストラクターとして企画力をつけることができます。毎回の受講者数が流動的なので、その点が問題点だと思いますが、正規の授業よりも自由度が高く、留学生との距離が近いのではないかと思います。今後もぜひ参加したいです。」

「毎回参加しています。昨年度も参加しました。イブニング・コースは、講師が自由にクラス提案し、受講者の希望に合わせてすることもできるので、無理のない進度で授業を進めることができ、良いと思います。毎回受講者の人数が決まっていない点は、問題があると思います。正規の日本語クラスの場合は、宿題や試験もありますが、イブニング・コースにはそれがありません。イブニング・コースと正規の日本語クラスとを比較することはできないと思いますが、イブニング・コースは昼間の日本語のクラスに参加できない留学生たちのために役立っているのではないかと思います。」

「友人から教えてもらったことと、学部の掲示を見て、イブニング・コースのことを知りました。週1回か2回、時間の都合がつく日には参加しています。イブニング・コースでは、日本語を教える経験が積めます。自由参加なので、受講生が集まるかどうかによって、自分の教え方にはっきりとした評価が出るのではないかと思います。自由な方法で教えることができて面白いと思いますが、その反面、通常の教科書を使った指導形態がつかみにくいと感じます。今後も参加したいです。」

「週1回参加しています。昨年から参加しています。イブニング・コースは、集まっている生徒に合わせて柔軟にクラスの提案ができますし、生徒のほうも必要に応じてクラスを選べて良いと思います。今年度は宣伝が足りず生徒の集まりが去年より悪かったのが残念です。生徒のニーズとインストラクター側のクラス提案の不一致がどうしてもあるので、そこも問題点だと思います。今後も参加したいです。」

「週1回参加しています。昨年度から参加しています。今年度は会場が変わって狭くなったのが残念です。クラス提案がたくさんあって、昨年より楽しい内容になっていると思います。参加者が、全くの初心者か、日本語

能力試験対策クラスなどを受講する上級者に偏っている感じがします。イブニング・コースは、正規の授業を受けられない学習者層のニーズに応えているプログラムだと思います。今後も参加したいです。」

注：

- 1) 日本語イブニング・コースでは、インストラクターのためにメーリング・リストが設けられている。このメーリング・リストには、スケジュール等の情報が掲載されるだけでなく、様々な教材の配信や、日本語教育に関する情報提供もある。インストラクターはこれらの情報を自由に活用することができる。

やました よしたか (留学生センター教授)

Midterm Report of Hokudai Nihongo Evening Course

YAMASHITA, Yoshitaka

Hokkaido University Nihongo Evening Course was designed for all the international students and researchers and their families who want to learn Japanese. This course began last year. It is characterized by its flexibility of the schedule and course design. There is no placement test, no fixed textbook, nor homeworks. Its instructors are not professionals, but volunteers.

The Evening Course consists of “Pre-class,” “Interview Sessions,” and “Individual Class.” All students participate in the “Pre-class” to begin with. Afterwards, they can choose an “Individual Class,” based on their needs or interests. This year we have more variety of the “Individual Class” than last year.

We believe this course's system can serve as a model for other voluntary based Japanese language courses. We try to find the way of support for students who are learning Japanese.